

# ダニエル・カールの

# 聞きたい! 消防団

第9回

## 大阪府泉大津市消防団

今回は、大阪府の南部にある街、泉大津市をお訪ねしました。

なんと、こちらでは過去に消防団が解散したことがあるそうで、平成17年に30数年ぶりに消防団が再結成されたそうです。

再結成するにあたって、消防団員の募集や訓練などいろいろな御苦労があったと思います。

再結成から約9年を経た今、現在までの経緯、消防団の現状、防災対策などなどをお尋ねしたいと思います。

では、泉大津市消防団の佐島勝二団長、藤原豊光副団長、長谷川さおり分団長、泉大津市消防本部の高寺一徳総務課長の皆さんからお話を伺いましょう。



前列左から、佐島団長、ダニエル・カール。後列左から藤原副団長、長谷川分団長、高寺課長  
(泉大津市消防本部で撮影)

## 泉大津市について

**ダニエル** 本日はよろしくお願いします。まず、泉大津市の概要について簡単に教えてください。

**高寺課長** 泉大津市は、大阪府の南部に位置し、西北部は大阪湾に面しています。地形は市内全域がほぼ平坦で、かつ、市内全域が市街化区域になっています。年平均の気温は17℃前後と温暖で、冬季に氷点下になることは比較的に少ないです。昭和17年に市制を施行し、当時の市域面積は8.2平方キロメートル、人口は約3万3千人でしたが、市勢の発展と臨海部の埋め立てにより、平成26年2月現在、面積は13.36平方キロメートル、人口は約7万6千人となりました。

**ダニエル** 比較的人口密度が高い印象ですね。

**高寺課長** 面積が小さい事もありますが、全国での人口密度ランキングでは60位となっております。また大都市である大阪市や堺市などに近く、利便性がよく住みやすい街であると思います。



泉大津市・市街地の風景

## 消防団の再結成及び概要について

**ダニエル** 9年前の平成17年に30数年ぶりに消防団を再結成したと聞いたのですが？

**高寺課長** サラリーマン化による就業構造の急激な変化に伴って団員数が激減したことから、高度経済成長期の昭和47年に、消防団は解団す

ることとなりました。

しかし、阪神淡路大震災をはじめ、大規模災害が全国各地で発生するなどの状況があったことから、より地域防災力の向上を図るため、その担い手であります消防団を、約33年ぶりの平成17年7月に再結成しました。

平成17年の再結成時の定数は60名、その後、平成20年には72名、平成24年には80名と変更し、現在に至っています。

**ダニエル** 現在の消防団はどうなっているんですか。

**高寺課長** 平成26年2月現在の団員数は72名で、その内訳は男性59名、女性13名となっています。消防団は、1本部（団長・副団長2名）・3分団で構成されており、男性2分団、女性1分団となっています。

**ダニエル** 全体の5分の1くらいが女性なんですか。すごい割合ですね。（女性団員は）どんな活動をされているのですか。

**高寺課長** 女性団員は応急手当普及指導員（24時間講習）の資格を取得しているので、市民に対して、救命講習会などで、AEDの使用方法などを指導しています。消防職員といっしょに行ってもらっているのですが、皆さんサービス精神旺盛の大阪の女性ですから、たいへん御好評をいただいております。

**ダニエル** 全員が（指導を）できるんですか。

**長谷川分団長** できます。今度の日曜日にも、野球少年たちに指導をする予定です。

**ダニエル** いろんな地域で女性団員が広報活動を行っていることをよく聞きます。こちらでは、例えば、小学校に行って子どもたちへの防災啓発などは行ったりしていますか。

**長谷川分団長** 平日はみんな仕事などがあって忙しいので、まだできていません。去年は全国

大会に向けての訓練でがんばったので、今年は広報に力を入れていきたいと思っています。

**高寺課長** 女性団員の皆さんは、去年、横浜で行われた全国女性消防操法大会に大阪府代表として出場し、泉大津市消防団をおおいにアピールしてくれました。

**佐島団長** 長谷川さんがリーダーシップをとってうまくみんなをまとめてがんばってくれました。あわよくば優勝をと思ったのですが（笑）

**ダニエル** 結成から9年で府の代表とはすごいですね。女性は全国どこでもやっぱりパワフル。あ、そうだ、男性のほうも伺わないと（笑）



全国女性消防操法大会に向けての訓練中の様子

**高寺課長** 男性団員については、幸いにも再結成以来、管内において、大きな災害もなく実践活動は行っていませんが、平素は活動の基礎となるホース延長訓練また資機材取扱訓練を中心にを行っています。また、津波避難訓練・総合防災訓練などでは訓練参加者に対し、指導にあたっています。



消防出初め式での放水の様子（男性団員）

## 再結成から現在の課題まで

**ダニエル** 約33年ぶりの結成。大変だったでしょうね。

**高寺課長** 本来、新規入団者はその地域に応じた訓練を先輩から伝承されますが、すべての団員が一からのスタートでしたので、周辺市町の消防団担当者にいろいろと教えてもらう日々が続きました。

また、私自身、消防団がどのような活動を行うのかも一からの勉強でした。

**ダニエル** 団長が入団されたきっかけは？

**佐島団長** 任免は市長なんですけど、当時の自治会のトップのかたから頼まれて消防団に入りました。正直、いったい何をすればいいのかよくわからない状態で入りました。

**ダニエル** 前に団員になったことは？

**佐島団長** ないですね。ほとんど全員が未経験でした。

**ダニエル** まったくのゼロから勉強しなければならなかったというわけですね。

**佐島団長** みんな自分の仕事をしながらですから、きつかったですね。

**藤原副団長** 人数をそろえるのは、当時の市長や消防長が特に大変だったと思います。

**ダニエル** 副団長の入団されたきっかけは？

**藤原副団長** 市長に頼まれて入りました。

**ダニエル** 長谷川さん（のきっかけ）は？

**長谷川分団長** 当時の自治会長から頼まれて、夫といっしょに入りました。

**藤原副団長** （自治会長は）前の団長です。自治会連合会会長で、この人が初代の団長でした。

**佐島団長** 約80の自治会があったので、各会から1名程度を集めるということで始まりました。

**高寺課長** 当時の市長が本市の防災力強化のため、今後発生が懸念される大規模災害発生時に

において、消防団が不可欠であることから再結成に至り、同時に女性消防団も結成されました。

**ダニエル** 人を集めた後、では次に何をすればいいの? という状況だったんでしょうね。

**高寺課長** 団員には申し訳ありませんが、これが制服、これが活動服、ベルトはこう締めますというところから始めたことを覚えています。

**ダニエル** 若いうちに入って先輩から教えてもらうのが普通ですから、皆さんこの9年間で相当勉強されたんでしょうね。

**藤原副団長** 9年たってそろそろ人が入れ替わる時期なのですが、次の人を入れるのに苦労しています。年齢層も高いので若い人に入ってもらいたいのですが。

**ダニエル** こちらの団の平均年齢は?

**高寺課長** 50歳です。

**ダニエル** 熟していますね(笑)。都会ならではの構成という印象をうけます。新しい団員の募集はどうやっているのですか。

**長谷川分団長** 広報誌などで募集はしているのですが、なかなか集まりません。口コミで紹介してもらった人を、一人一人勧誘して入ってもらっているような状態です。

**ダニエル** 時間がかかりますね。

**高寺課長** 全国的に有名な岸和田のだんじり祭りがあります。泉大津市にもだんじり祭りがあり、30歳前後の若者が中心となり盛り上がっています。この若者の力を消防団に生かせないかと考えています。

**藤原副団長** 本当はその年代の人に入ってもらいたいんですけどね。消防団の訓練は土日にやることが多いので、みんな祭りを優先するからなかなかこちらに来ません。

**佐島団長** 若返りはほんとうに大事な課題です。全国の消防団からいいアイデアがあればぜひ

教えていただきたいですね。

## 大規模災害時での活動について

**ダニエル** 皆さんがもっとも必要とされているのは、大規模災害が起きたときだと思います。こちらでいちばん心配な災害は何でしょうか。

**佐島団長** 津波ですね。

**高寺課長** 南海トラフ地震が起きた場合は、ここ泉大津市で津波高約4メートル近と想定されています。また、津波到達時間は約90分となっていますので、災害活動にあたる団員の安全対策を早急に検討しなければならないと考えています。

また、高層ビル所有者とは、津波避難ビルとして協定を結んでいます。

**ダニエル** 東日本の被災地を見てきましたが、仙台などの平地が多い地域ではけっこう内陸まで津波が入り込んできました。こういう人口密度が高い地域では、全員がいっしょに避難することは難しいところがあると思います。いざというとき市民はどうするのでしょうか。

**藤原副団長** 府のシミュレーションでは、南海電鉄の高架線(消防本部から東側に位置)までは全部津波にやられるとのことなので、高架線より東側に逃げることになります。



平成25年度泉大津市津波避難訓練の様子

**ダニエル** ここ（消防本部）は海からどれくらいの距離ですか。

**高寺課長** 近いところでは1キロメートルもないと思います。

**藤原副団長** 現在、（災害発生時の）団員の集合場所はこの消防本部になっているんですが、ここは海拔2メートルしかありません。集合場所としてはおかしいんですよ。

**高寺課長** 結成してまだ9年、屯所もじゅうぶんに整備されていません。なかなか市が持っている土地の空きがないのが実情です。現在、（南海電鉄の）高架下に詰め所をつくることも検討しています。消防団の装備の基準も先ごろ改正されましたし、ライフジャケットなど必要な資機材をそろえていきたいと考えています。

**ダニエル** 災害対応のための訓練、プランニング、マニュアルの作成、地域の皆さんとのコミュニケーションなど、どれも一苦勞ですね。東日本大震災は3年前に起きたので皆さんの記憶にまだ新しいでしょうが、これが20年、30年たつと薄れてくると思います。そういう薄れたときに、来るところにはまた津波が来てしまう。三陸の避難所で90歳を超えたおばあちゃんと会ってお話しましたが、「もう津波はごめんだよ。これで3回目だ」と嘆いておられたのが印象的でした。



平成24年度泉大津市総合防災訓練での市民への救命指導の様子

## これからのこと

**ダニエル** せっかくの機会ですので、全国の消防団にアピールしたいことがありますか。

**藤原副団長** アピールというか悩みばかりで愚痴になります（笑）どうやって人を集めればいいのか。どこの消防団でも同じ悩みを持っているのかもしれませんが。うちでは、（火災などの災害現場での活動を）実践する機会がない。

**高寺課長** 火災は常備消防が対応し、海上は水上警察や海上保安庁が対応しています。（泉大津市には）山もありません。

**長谷川分団長** 平和な街なんです。

**藤原副団長** 若い人で消防車に乗りたい、現場で活躍したいという人はいるのですが。なんのために訓練をしているのかという人もいます。いざというときに体が動くようにするために訓練をするのですけどね。僕ら消防団の位置づけはどうなっているんだという人もいます。

**ダニエル** 災害はいつ来るかわからないわけですからね。

**藤原副団長** 近隣自治体の消防団が参加する交流会があって、そこで感じるのですが、古くから消防団がある地域では、団長・副団長は、1団員にとっては、まさに雲の上の存在。格が違うわけです。それで私たちはというと、9年前にいっしょの時期に消防団員になりました。経験を積んで（団長や副団長に）なったわけではないんです。だから、いろいろと突っ込まれたときに、なかなかうまく言えないんです。

**ダニエル** そうか。ふつう消防団員は経験で階級が上がっていくわけですよね。20年やった、30年やったとか。そういう悩みもあるんですね。経験がほしいけど、災害がないから経験がない。災害が来てほしいわけではないですし。

**高寺課長** ないのが幸せなことですので。

**ダニエル** 来てほしくないけど、(災害対応への)準備はしなくてはいけない。

**藤原副団長** 大津波が来たらどうするんだと聞かれたら、「自分の身を第1に考えて、家族を見て、地域を見て、それからここ(消防団の集合場所)に来たらいい」と言っています。

**ダニエル** つきあい上手を心がけないといけませんよね。ポストっぽく、ふんぞり返って上から言うのはダメですよ(笑)。

**藤原副団長** 絶対にダメですね(笑)。

**佐島団長** 一般の団員も僕ら幹部も同時スタートですから。技能や知識が上ならリーダーシップがとれるのですが、みんないっしょです。

**ダニエル** 元気はどうですか。

**佐島団長** それくらいかな、勝ってるのは(笑)。

**ダニエル** ほんとうに皆さんお元気ですね。定年制はあるんですか？

**高寺課長** 現在は設けていません。

**佐島団長** (やめるのは)自己申告ですね。

**藤原副団長** 次から次に人が入ってくるという状況ならば別なのですが。

**ダニエル** (長谷川分団長を見て)定年はないそうです。これから長くなりそうですね(笑)。最後に一言、この1年間の目標をお願いします。まずは、長谷川さんから。

**長谷川分団長** お話にありましたように、みんな横一線でスタートしたので、反対に女性消防団員としてはありがたい感じですね。まさるな状態でなんでもさせてもらっています。ほんとうに皆さんには協力的にやってもらっています。(女性団員の)仲間はみんな個性が強いのでこれからはいっしょに楽しくやっていたらなと思っています。去年の全国大会への出場でも自信もつきましたので、このことをアピールしながら、今まで以上に広報に力を入れたいですね。

**佐島団長** 全市民に消防団が知られていないのが実情です。泉大津市に消防団ってあったの？という反応もあります。より力を入れていかないと。来週の3月3日((注)取材時は平成26年2月24日)には、駅前朝7時半からティッシュ配りを予定しています。

**ダニエル** 副団長からもお願いします。

**藤原副団長** 団としてのまとまりの強化ですね。上からの指示がきちっと伝わるようなほんとうの組織になってほしい。さきほども言ったように、いっしょに消防団員になったので、なかなか指示が難しい。指示がしっかりと全員に伝わらないと、何か災害があったときに危ない。9年たって徐々に組織になってきてはいるので、よりがんばっていきたいです。

**ダニエル** では、団長からも一言。

**佐島団長** さきほども言いましたが、若返りを進めていきたいですね。最大の課題です。

**ダニエル** ちょっとお悩みが多い気がするのですが(笑)、最後に御自慢をぜひお願いします。

**佐島団長** やはり女性消防団員の皆さんですね。去年大阪代表として全国大会に出たこともそうですが、ゼロから出発した中でほんとうにがんばってくれています。

**ダニエル** 男性団員の皆さんも忘れずにほめてあげてくださいね(笑)



泉大津駅でのティッシュ配りの様子

## 対談を終えて

私の印象ですが、消防団は、自衛隊、(常備)消防ほどのフォーマルながちがちの組織ではないと思います。ボランティアのような性格もあるわけですし。みんなそれぞれの仕事が忙しい毎日の中で時間をつくって参加しているので、(団員の皆さんはそれぞれが)貢献しているという気持ちが強いのではないかなと思います。

どういうふうに表示してみんなを誘導するかというと、権限・権威というよりも、頭をつかって誘導していくしかないところがあると思います。

例えば、北の漁師町での消防団員というと、みんなそれぞれ一匹狼のような人が多く、権威などでがちがちに言う、言うことを聞かないところがあると思います。漁師はそれぞれが船の主で、他は競争相手みたいなものですから。一方、農家が多い地域だとしっかりとお互いに協力しないとやっていけないというところがわかっている。こちらのような都会地域だと、この中間みたいな状況なんでしょうか。競争相手

は多いけど、協力をしないといけないのもわかる。また、あっちがサラリーマン、こっちが自営業と職業が異なっていて、競争がない場合もあります。いろいろな職業や立場の人がいるから、ほんとうにまとめにくいと思います。消防士のように、どうしてもなりたくて入ってきた人ばかりではないと思いますので。

ですから、命令っぽく、上から指示するばかりでは難しいところがあると思います。ある程度は柔らかく、お互いに分かり合って許しあえるような、団結心、きずなを感じられるようなつながりを持つことが大事だと思います。

全国的に珍しい9年目の消防団。皆さんの御苦労、御活躍など、おかげさまでたくさんの貴重なお話を伺えました。皆さんがおっしゃったように、まだ経験は浅いかもしれませんが、9年でここまでくれば、たいへん立派だと思います。

泉大津市消防団員の皆さんのいっそうの御活躍をお祈りします。(ダニエル・カール)



全国女性消防操法大会での泉大津市女性消防団員の競技中の様子